

* 2024 年度以前に履修登録された EB39（産業・組織心理学）とは別科目になりますのでご注意ください

専門教育科目

講義科目

授業科目名	産業・組織心理学	科目コード	配当年次	単位
担当教員	兼高 聖雄	EB89	3・4	4
科目の概要				
産業・組織心理学が、これまでに蓄えてきた研究知見には、企業・病院・学校・官公庁・地方自治体などの組織で働く社会人が、日々の仕事を遂行していくうえで有益な理論やモデルが数多くある。 本科目は、組織行動、人事心理学、作業心理学、消費者心理学の4つの領域にわたり、“理論と実践の橋渡し”をする。単なる理論やモデルの解説にとどまらず、できるだけ具体例や実践事例、実証調査の結果などを盛り込み、組織が人間や集団に与える心理面での特性や組織における人間行動について学習する。				
科目の到達目標				
①組織と呼ばれる集団のメカニズムを理解でき、組織の集合体としての産業を概観することができる。 ②職場のモチベーションやリーダーシップの重要性を理解し、人材育成や職場のメンタルヘルス維持などの改善方法を提案できる。				
テキスト	『社会人のための産業・組織心理学入門』高橋 浩 他, 産業能率大学出版部, 2024年			
テキストの読み方				
①産業・組織心理学は、心理学の分野の中で「応用分野」とされる。テキストでは、今までに発見されてきた基本的な心理学理論や研究を実際の場面に応用した事例が多く示されている。 ②事例研究の場合、条件が限定されていたり、環境設定が固定化されていたりするので、すべてのケースに当てはまるわけではないが、人間の行動特性をとらえるために有用である。 ③テキストを読むときは、具体例に当てはめて考えると理解が深まる。自分の行動を振り返ったり、他者の行動を観察しながら学習を進めるのも重要である。				
単位修得の方法				
①レポート課題（基本・応用）を提出し、それぞれ60点以上であれば合格となり、科目修得試験を受験できる。科目修得試験の得点が60点以上であれば合格となり、評価が確定し、4単位を修得できる。または、 ②基本レポートを提出し、60点以上であれば合格となり、スクーリングを受講できる。スクーリングに合格すると、評価が確定し、4単位を修得できる。この場合、応用レポートの提出は不要。				